

# 平成24年3月期(第10期) 決算説明会

平成24年5月17日  
株式会社ジーダット

# 平成24年3月期のポイント

**創業以来初の経常赤字△9百万円**

**繰延税金資産全額取崩しにより  
当期利益△2億29百万円**

**減収減益、売上高前年同期比△7.2%**

**中国市場営業強化の効果出せず、海外売上横ばい**

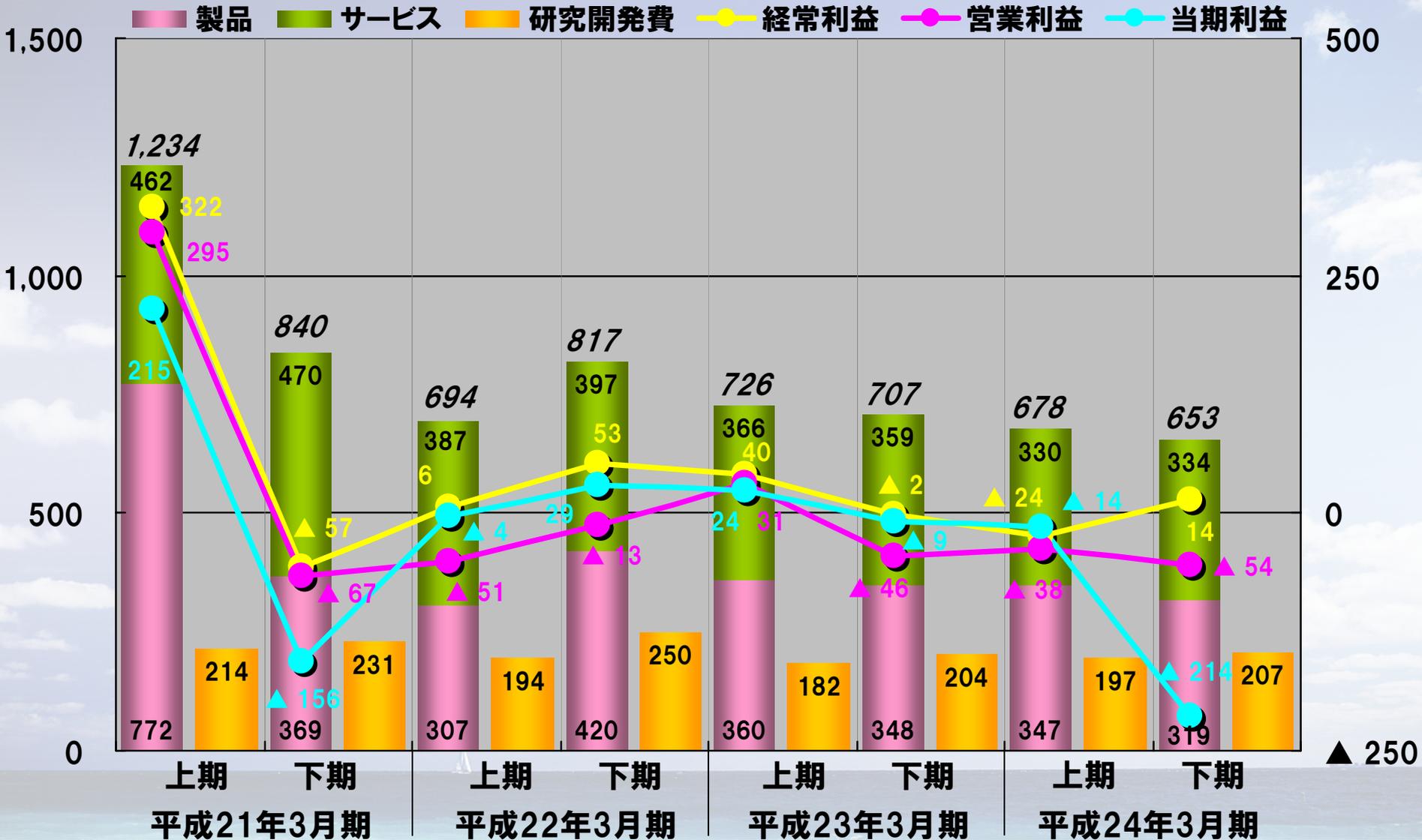
# 平成24年3月期業績概要(連結PL)

(単位：百万円)

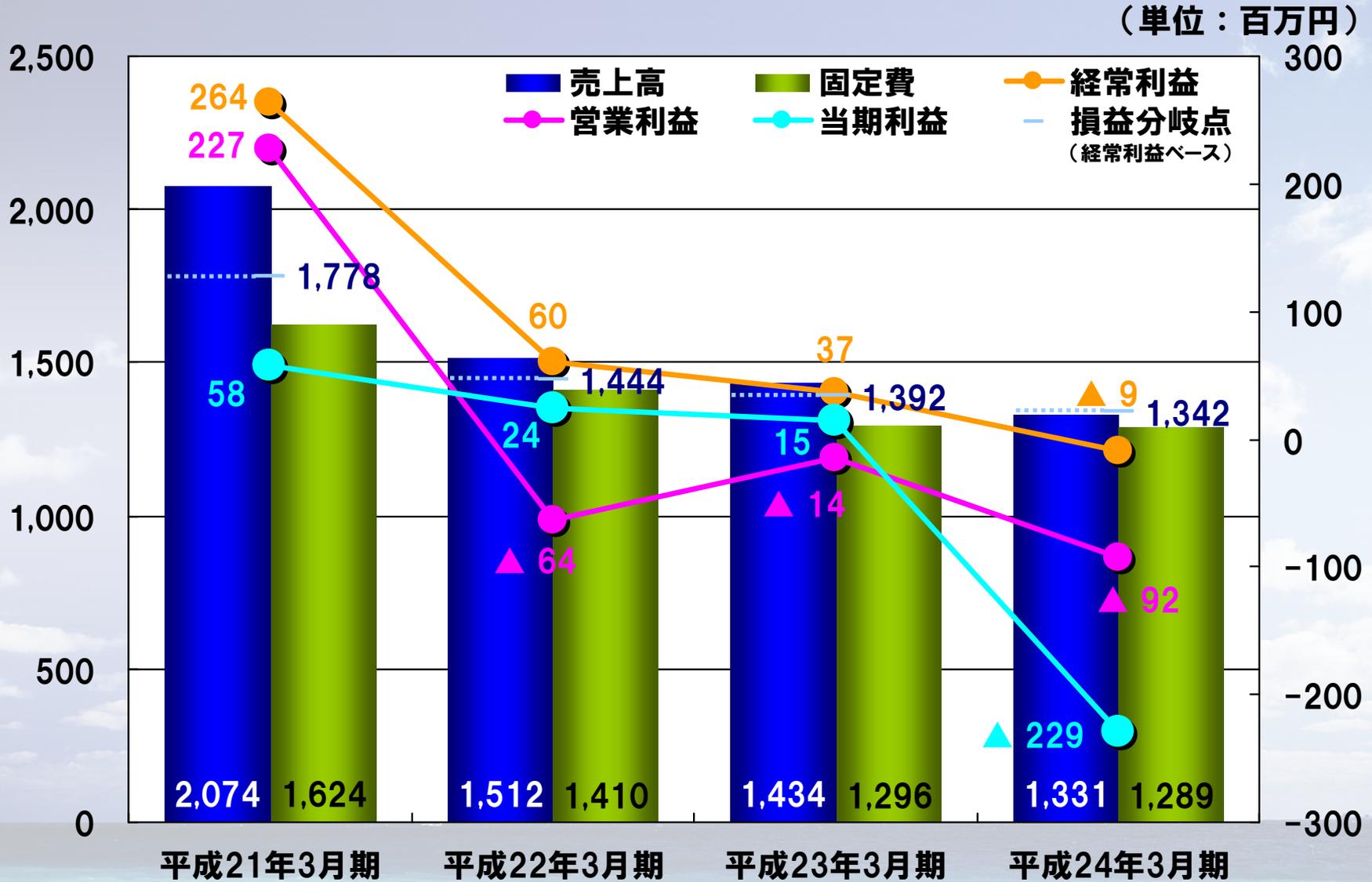
	平成23年3月期		平成24年3月期		
	実績	売上高比	実績	売上高比	対前年同期比
売上高	1,434	100.0%	1,331	100.0%	△7.2%
売上総利益	1,006	70.1%	993	74.6%	△1.3%
販売費及び一般管理費	1,021	71.2%	1,085	81.5%	6.3%
営業利益	△ 14	△1.0%	△ 92	△6.9%	—
経常利益	37	2.6%	△ 9	△0.7%	—
当期純利益	15	1.1%	△ 229	△17.2%	—

# 半期毎売上高・利益の推移

(単位：百万円)



# 売上・利益の推移

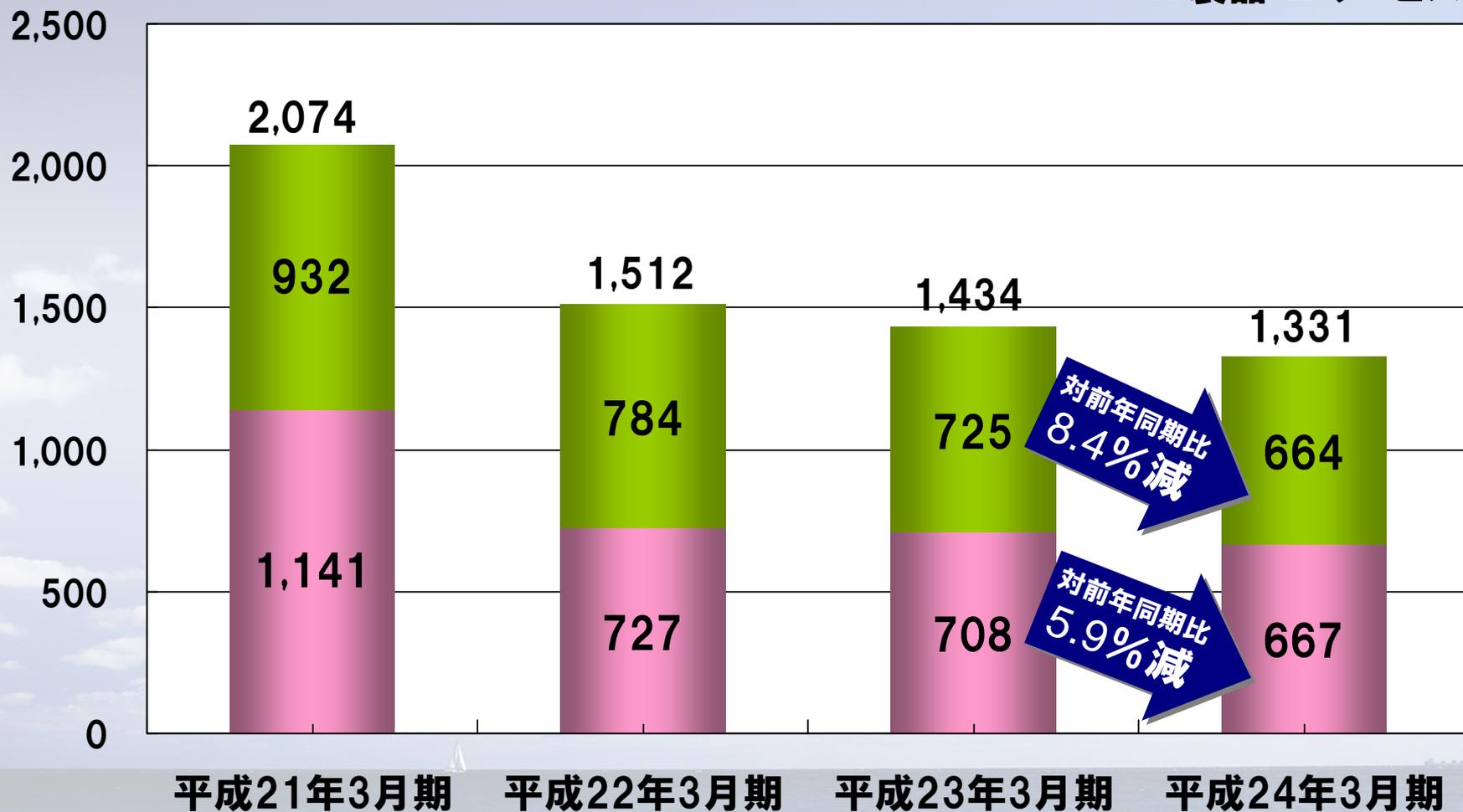


# 事業別売上高の推移

【製品／サービス】

(単位：百万円)

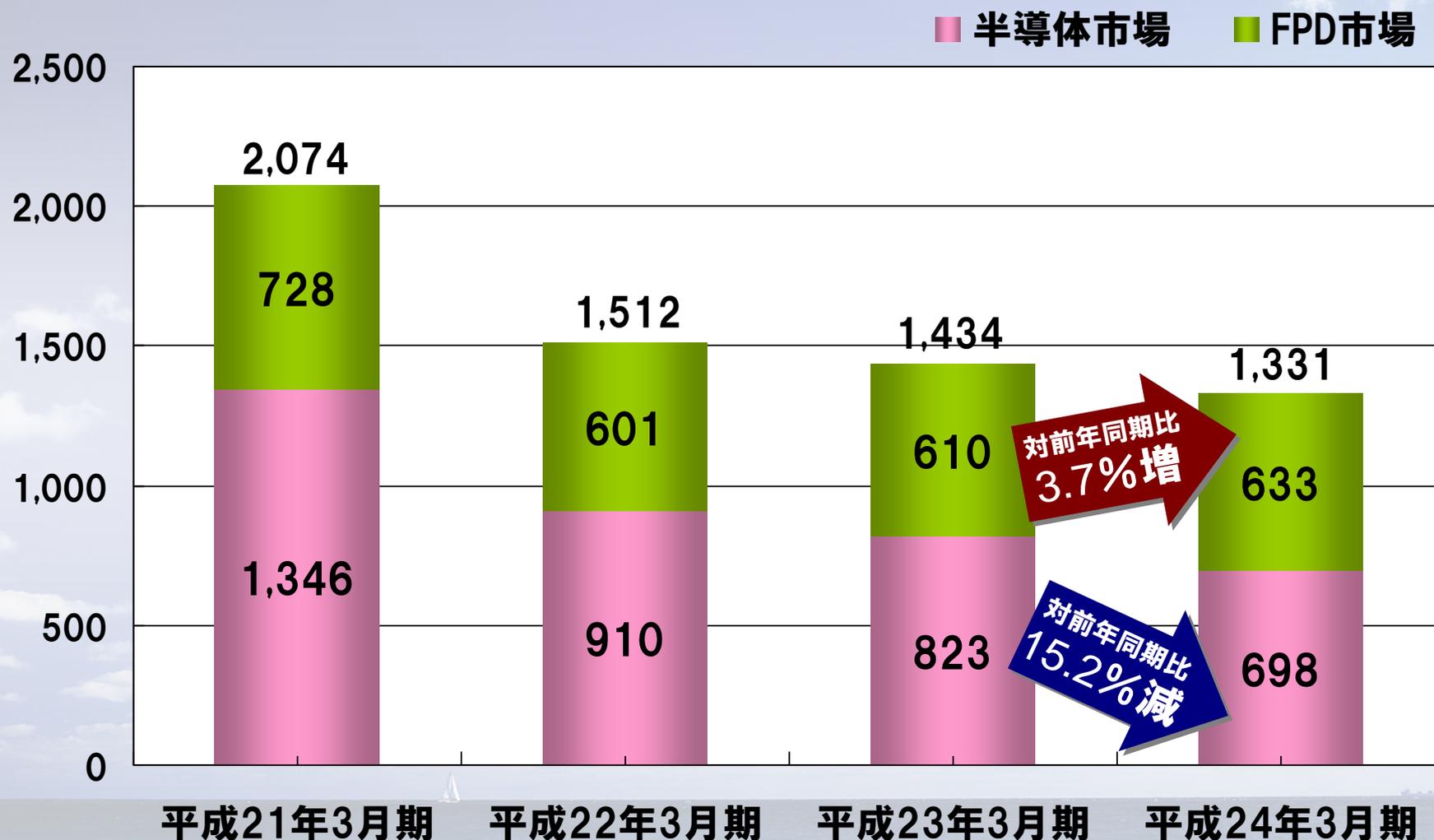
■ 製品 ■ サービス



# 市場別売上高の推移

## 【半導体市場／FPD市場】

(単位：百万円)

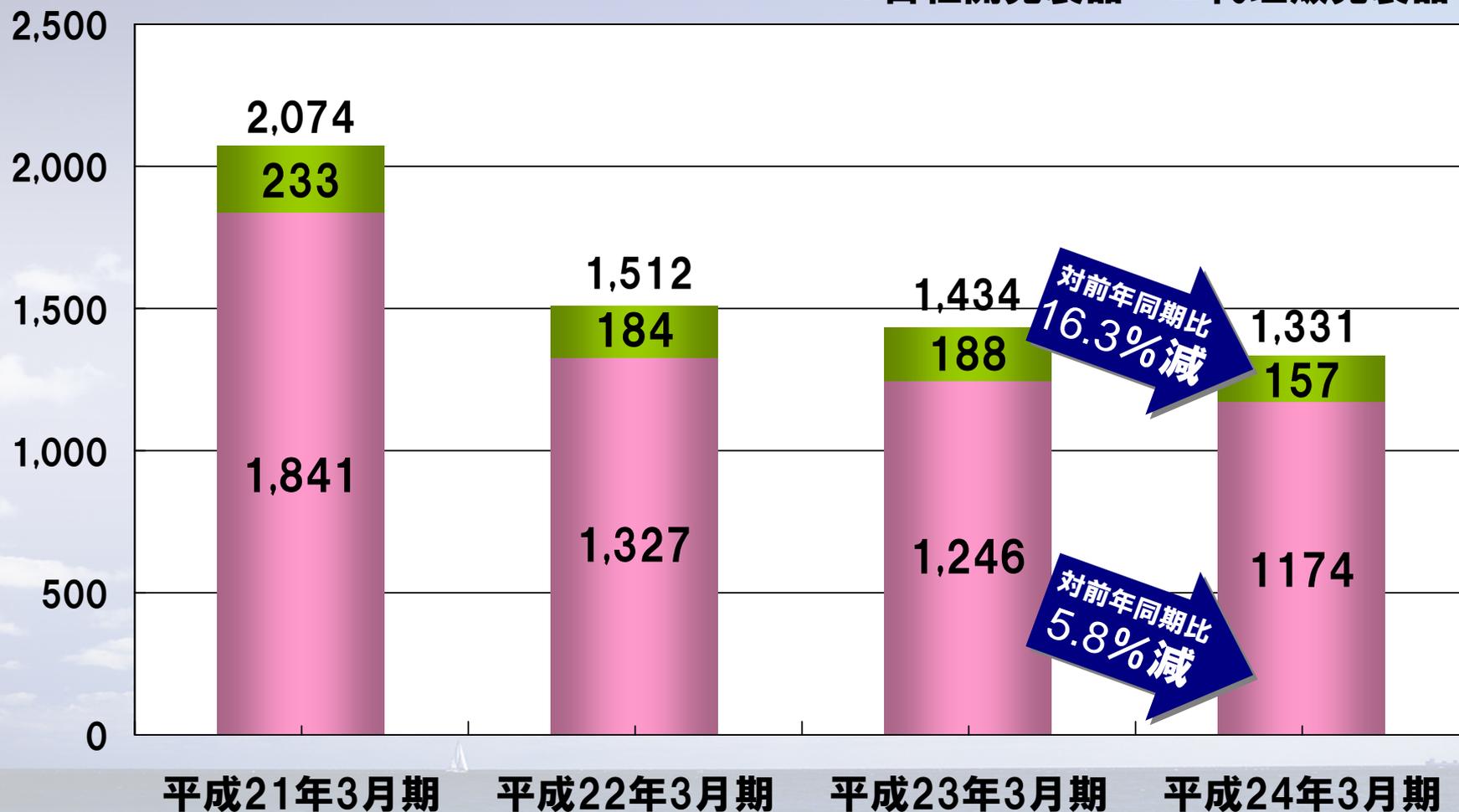


# 製品区分別売上高の推移

【自社開発製品／代理販売製品】

(単位：百万円)

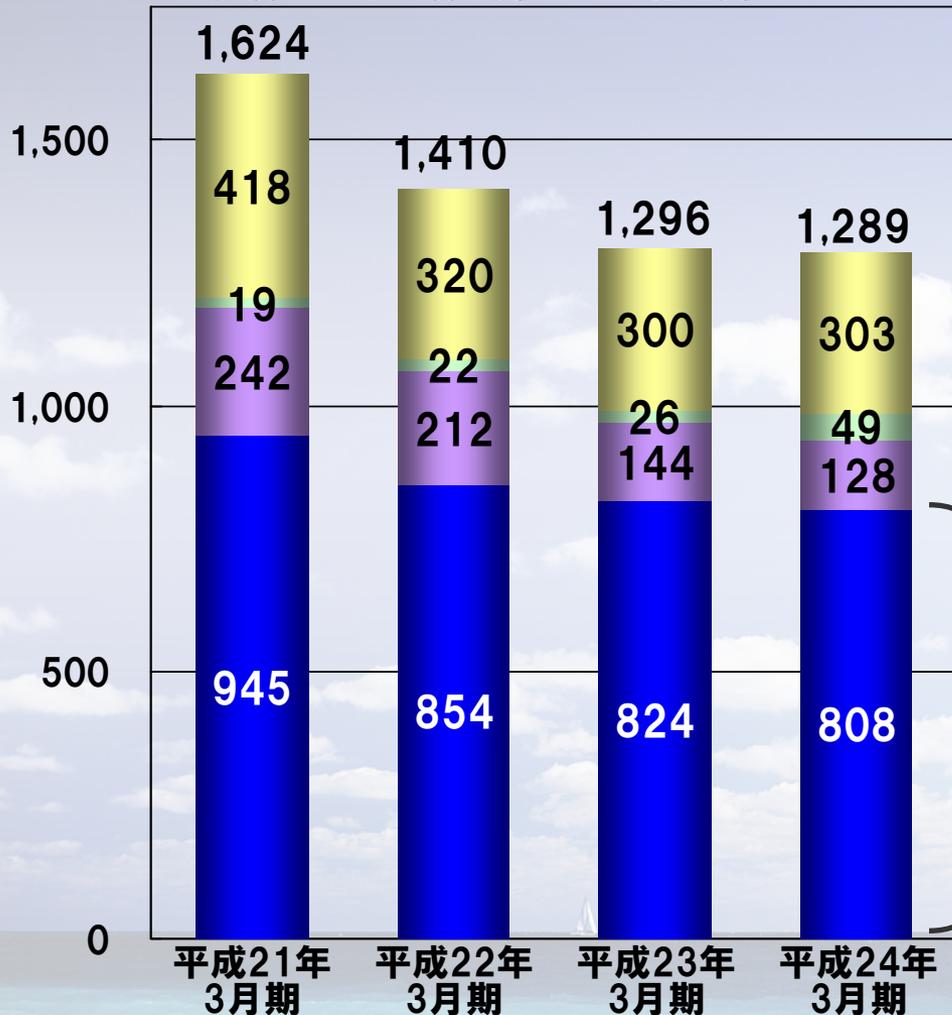
■ 自社開発製品 ■ 代理販売製品



# 固定費内訳

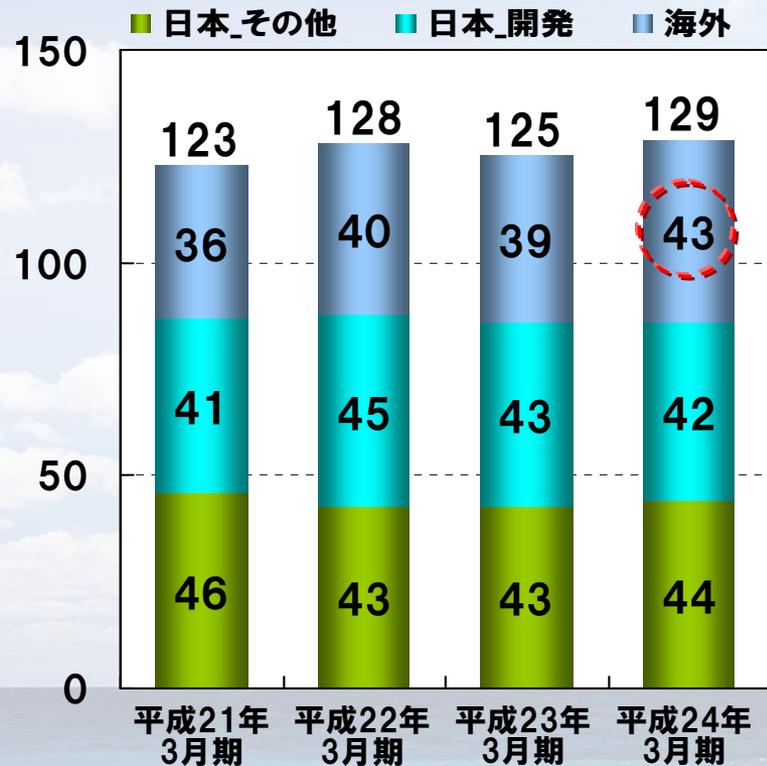
(単位:百万円)

- 人件費
- 減価償却・のれん償却費
- 外注費
- その他経費



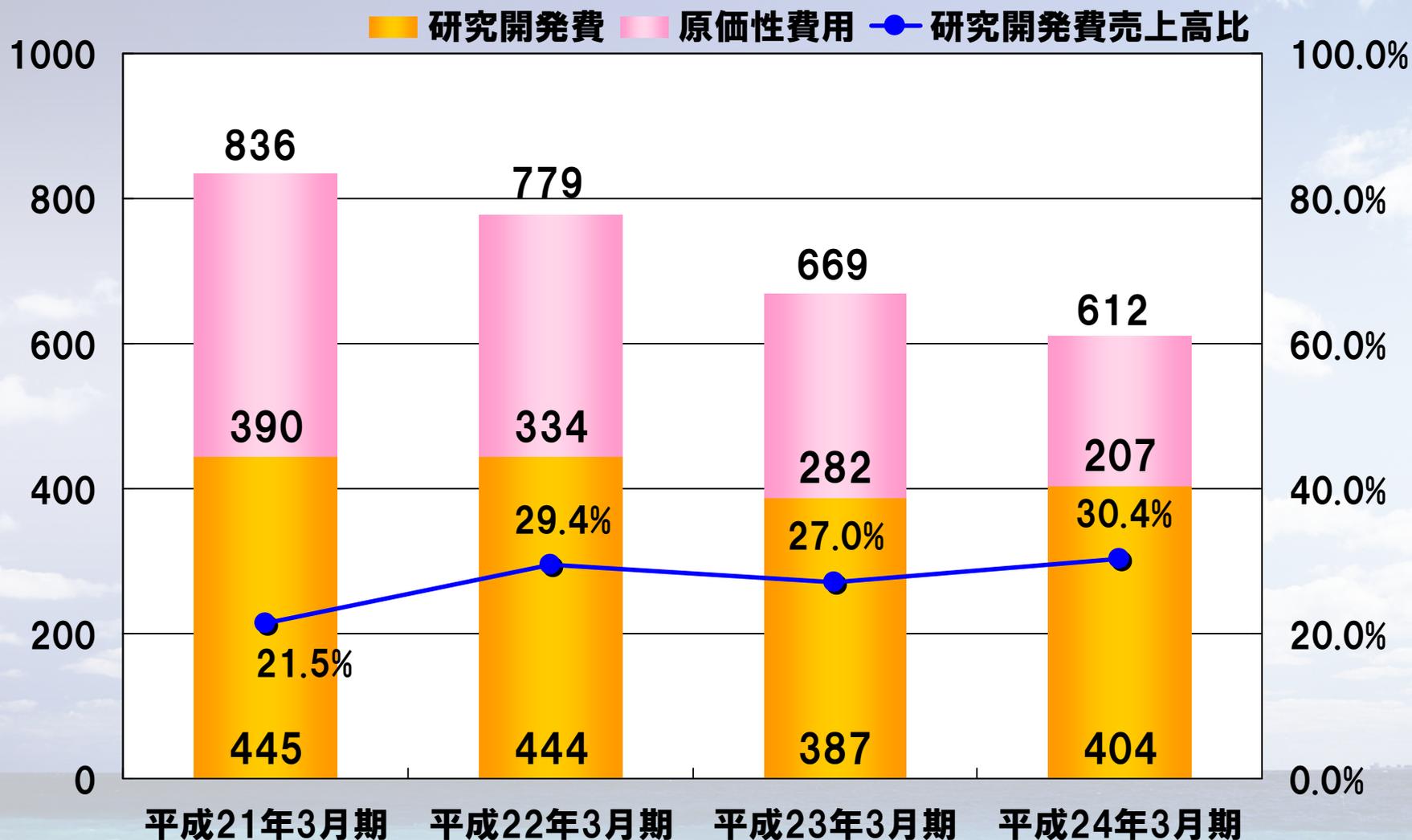
【期末社員数】

(単位:人)



# 開発部門費・研究開発費

(単位：百万円)



# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	平成23年 3月期末	平成24年 3月期末	差異		平成23年 3月期末	平成24年 3月期末	差異
<b>(資産の部)</b>				<b>(負債の部)</b>			
<b>I 流動資産</b>	2,353	2,340	△13	<b>I 流動負債</b>	224	235	10
1 現金及び預金	2,054	1,969	△84	1 買掛金	34	23	△10
2 受取手形及び売掛金	214	172	△42	2 未払法人税等	8	5	△2
3 電子記録債権	—	57	57	3 賞与引当金	40	37	△3
4 有価証券	—	99	99	4 その他	141	169	27
5 たな卸資産	7	4	△2	<b>負債合計</b>	224	235	10
6 繰延税金資産	20	—	△20	<b>(純資産の部)</b>			
7 その他	56	35	△20	<b>I 株主資本</b>	2,432	2,178	△253
<b>II 固定資産</b>	298	73	△225	1 資本金	760	760	—
1 有形固定資産	29	29	△0	2 資本剰余金	890	890	—
2 無形固定資産	22	19	△2	3 利益剰余金	814	561	△253
3 投資その他の資産合計	246	24	△222	4 自己株式	△32	△32	—
繰延税金資産	193	—	△193	<b>II 評価・換算差額等</b>	△4	△0	3
その他	53	24	△28	その他有価証券評価差額金	0	0	—
				為替換算調整勘定	△4	△0	3
				<b>純資産合計</b>	2,427	2,177	△249
<b>資産合計</b>	2,652	2,413	△238	<b>負債純資産合計</b>	2,652	2,413	△238

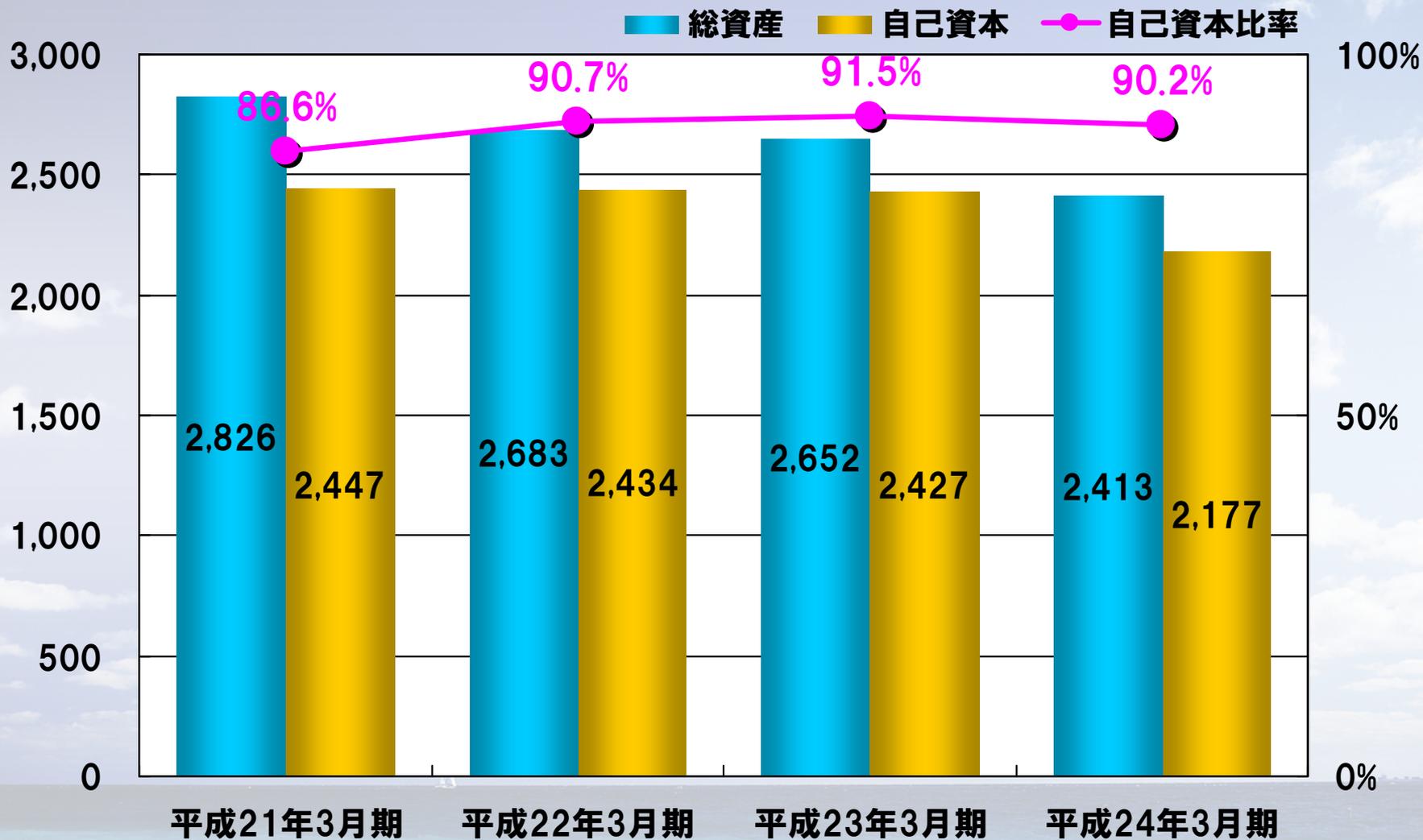
# 連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	平成23年 3月期末	平成24年 3月期末	差異
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	109	29	△79
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△214	200	414
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△19	△19	—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△3	2	5
V 現金及び現金同等物の増減額	△127	212	339
VI 現金及び現金同等物の期首残高	981	854	△127
その他の現金及び現金同等物の増減額	—	2	2
VII 現金及び現金同等物の期末残高	854	1,069	215

# 総資産・自己資本

(単位：百万円)



## ◆売上計画未達成

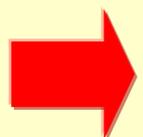
- ✓ 当初計画1,400M¥→実績1,331M¥( $\Delta 69M\text{¥}$ )
- ✓ 中国市場 下半期減速  $\Delta 35M\text{¥}$
- ✓ 三星 LCDパネル投資凍結  $\Delta 15M\text{¥}$

## ◆固定費計画比増

- ✓ 当初計画1,280M¥→実績1,290M¥(+10M¥)
- ✓ 計画外本社移転費用 +33M¥
- ✓ 経費削減  $\Delta 23M\text{¥}$

# 繰延税金資産の全額取崩し $\Delta 214M\text{¥}$

- ◆ 繰延税金資産の回収可能性判断における区分見直し:
  - 翌期1年間の課税所得見積額の範囲で回収可能性を評価するように変更
- ◆ 翌期の見通し:
  - 翌年度以降、新D/Bへの乗せ替え開発が本格化し、NEDO助成「次世代高信頼性LSI設計技術開発」も継続
  - 開発部門費の内、研究開発部分が増大 
  - 繰延税金資産の回収可能性低いと判断

 **全額取崩し**

# 平成25年3月期計画のポイント

**海外半導体市場への本格展開開始**

**研究開発費拡大、海外販促投資拡大  
固定費全体は削減**

**増収増益、経常利益黒字化**

**市場構造の変化に対応した  
社員のスキルアップ強化継続**

# 平成25年3月期業績予想(連結PL)

(単位：百万円)

	平成24年3月期		平成25年3月期		
	実績	売上高比	予想	売上高比	対前年同期比
売上高	1,331	100.0%	1,350	100.0%	1.4%
売上総利益	993	74.6%	1,081	80.1%	8.9%
販売費及び一般管理費	1,085	81.5%	1,141	84.5%	5.1%
営業利益	△ 92	△6.9%	△ 60	△4.4%	—
経常利益	△ 9	△0.7%	20	1.5%	—
当期純利益	△ 229	△17.2%	16	1.2%	—

# EDA市場の動向

- ◆ 国内市場の縮小はさらに2、3年は続く？
  - ✓ 世界的な価格下落傾向、続く超円高
  - ✓ 半導体市場で設計・生産拠点の海外シフト
  - ✓ FPD市場はPlayer数減少するも、短期的にはアップル効果、スマホ・タブレットPC効果に期待
- ◆ 海外FPD市場の伸びは中国頼り……
  - ✓ LCDパネルは不採算事業→中国へシフト
  - ✓ 欧州債務危機の影響→中国の投資過熱抑制
- ◆ 海外半導体市場拡大傾向、顧客は得意分野への資源集中
  - ✓ 超微細化半導体事業を継続できる企業は限定的
  - ✓ 新興市場の拡大
  - ✓ 自動車の電子化加速、節電気運、無線通信高速化、医療高度化……

# 課題と施策(1)

## 1. 海外半導体市場での拡販急務

### ◆ 新シリーズ製品リリース 6月

- ✓ 業界標準D/B (OpenAccess)対応
- ✓ 競合大手製品の設計フローへプラグイン
- ✓ 比較的短期間での成果目論見、サポート低負荷
- ✓  $\alpha$ -SXシリーズをベースに再構成

### ◆ $\alpha$ -SXでのリプレース

- ✓ トータル設計フローでの効果アピール: 新興、中堅顧客
- ✓ 有力半導体製造会社用設計ライブラリの整備強化必須
- ✓ 競合大手製品とのデータ変換精度強化必須

### ◆ DAC (Design Automation Conference) 出展開始 6月

- ✓ 世界最大の業界展示会・学会
- ✓ 商談発掘、販売戦略確認 & 見直し

### ◆ 人材の海外向けシフトとスキル強化

# 課題と施策(2)

## 2. 国内半導体市場での売上高維持＝シェア拡大

### ◆ 大手包括契約顧客向け: 新シリーズ製品

- ✓ 6月リリース、競合大手製品設計フローへのプラグイン

### ◆ 中堅顧客向け: $\alpha$ -SXでのトータルフロー

- ✓ 特定半導体製造会社用設計ライブラリの整備強化必須
- ✓ 競合大手製品とのデータ変換精度強化必須

### ◆ 「高信頼性設計」用途製品、電源設計・省エネ用途製品の機能・性能強化

- ✓ 新しいニーズの掘起こし

### ◆ DAC (Design Automation Conference) 出展開始

- ✓ 世界販売効果－国内顧客へのアピール

# 課題と施策(3)

## 3. FPD市場での売上高拡大

### ◆ 中小型LCDパネル向け: 高度な検証製品強化

- ✓ シャープ、ジャパンディスプレイ、韓国、遅れて中国
- ✓ スマホ、タブレットPC、デジカメ、カーナビ

### ◆ 大型有機ELパネル向け: 高速検証製品早期リリース

- ✓ 三星、LG、AUO、遅れて日本(Sony&Panasonic) ?

### ◆ 中国市場仕様製品拡充と営業スキル強化

- ✓ 欧州危機継続→政府支援抑制? →成長率減退?
- ✓ 生産管理・品質管理システムを合わせたトータルな提案
- ✓ 日本からの営業支援強化

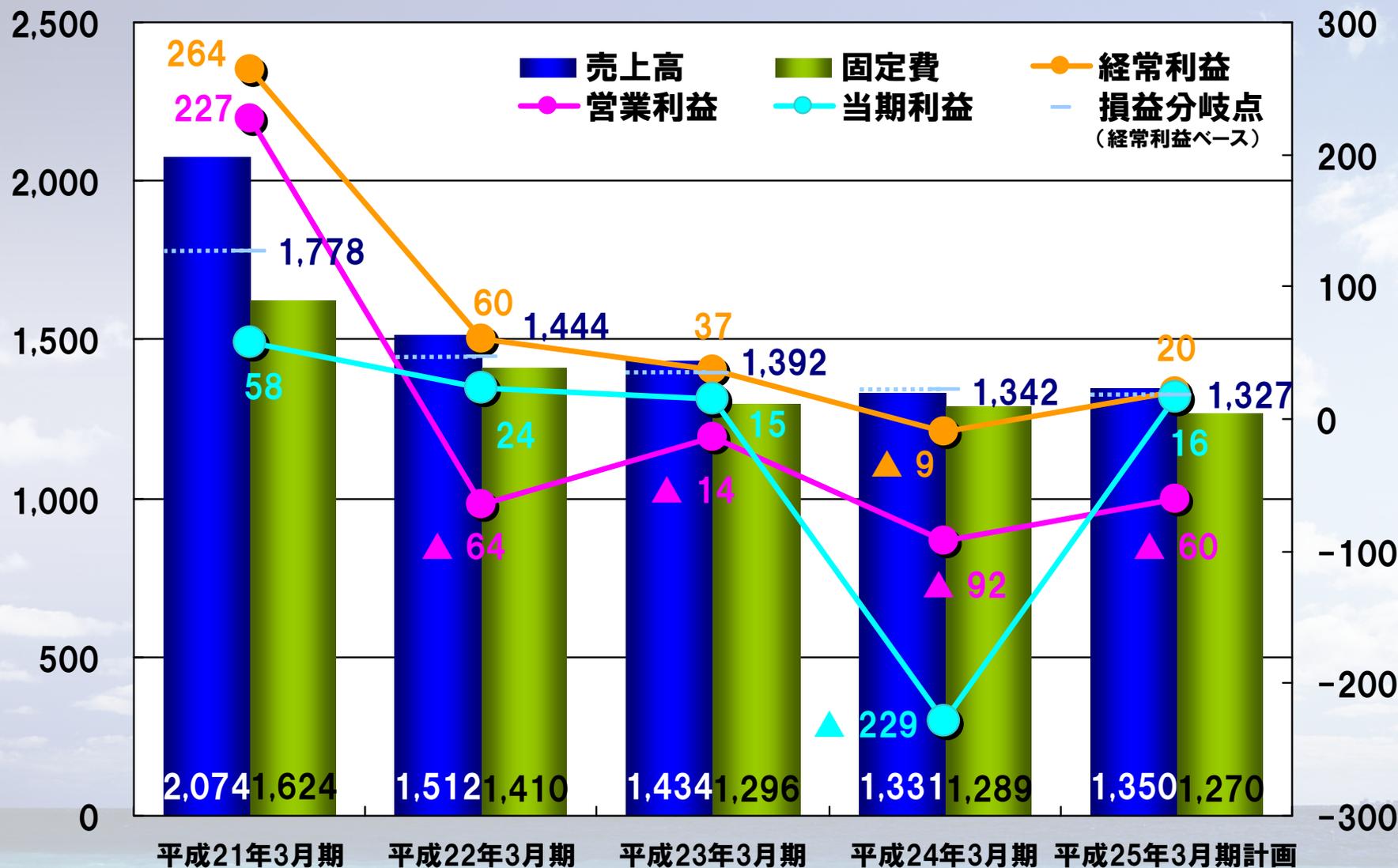
# 課題と施策(4)

## 4. 費用配分

- ◆ 固定費は全体として抑制  $\Delta 20M\text{¥}$ 
  - ✓ 本社移転による家賃削減  $\Delta 27M\text{¥}$
  - ✓ 昨年比で移転費用削減  $\Delta 33M\text{¥}$
  - ✓ 国内人件費増  $+17M\text{¥}$ 、中国人件費増  $+18M\text{¥}$
- ◆ 国内販売促進費は大幅削減、海外販売促進費を増加
  - ✓ DAC出展、海外出張費大幅増
  - ✓ 中国営業強化
- ◆ 開発部門費は横ばい、研究開発費割合は増加
  - ✓ OpenAccess対応新D/Bへの乗せ替えを本格開始
  - ✓ 助成金による共同研究の2年目

# 売上・利益

(単位：百万円)

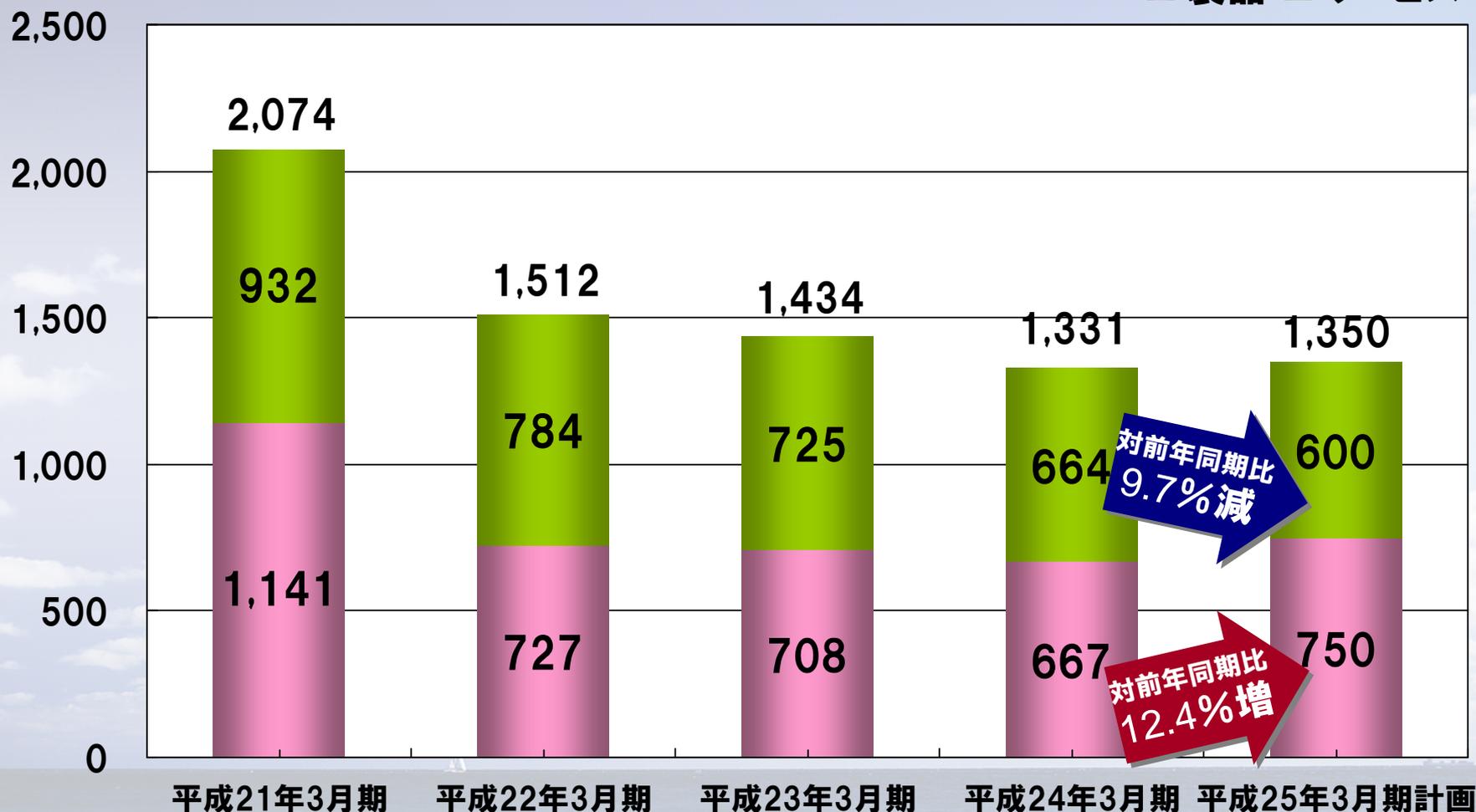


# 事業別売上高の推移

【製品／サービス】

(単位：百万円)

■ 製品 ■ サービス

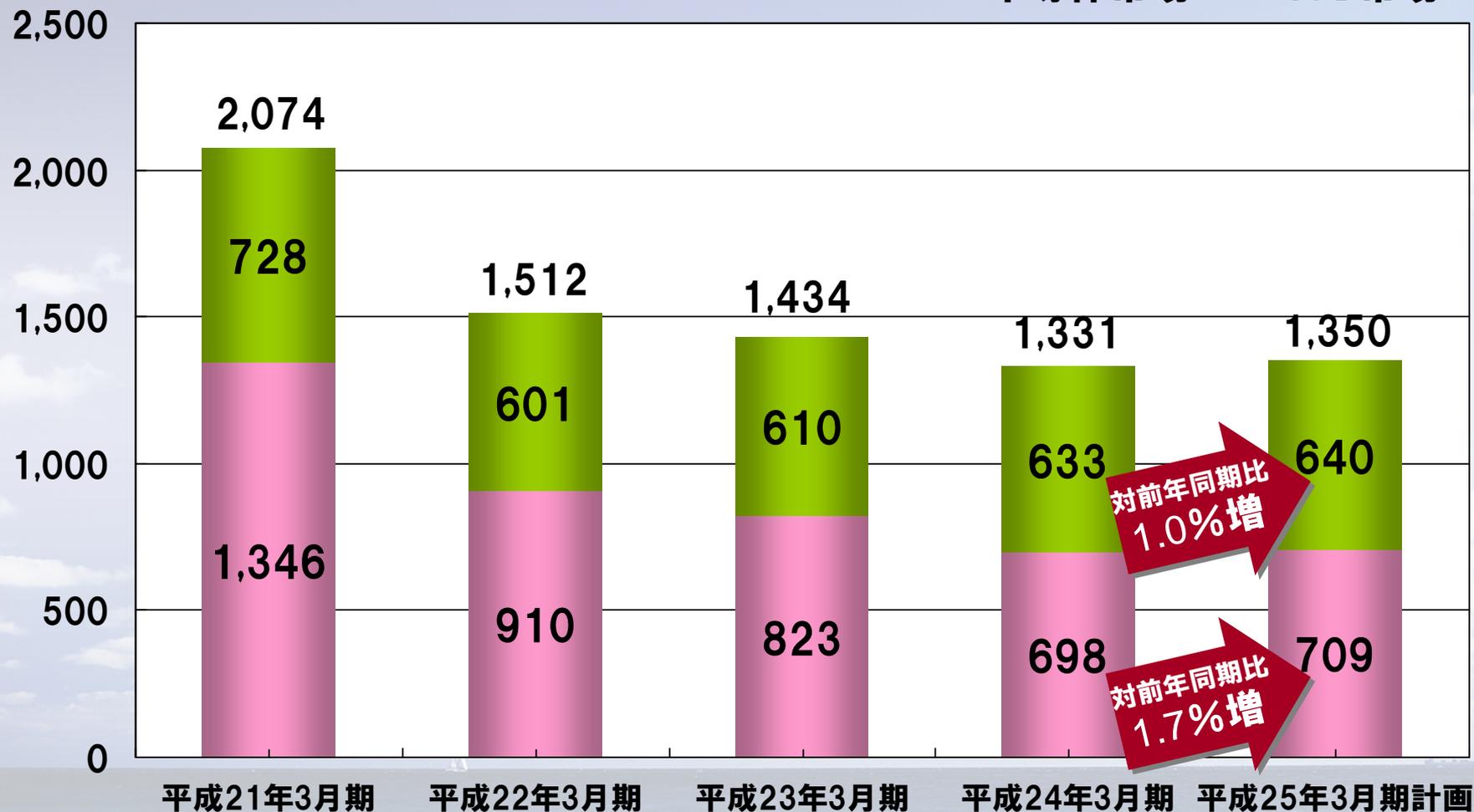


# 市場別売上高の推移

【半導体市場／FPD市場】

(単位：百万円)

■ 半導体市場 ■ FPD市場

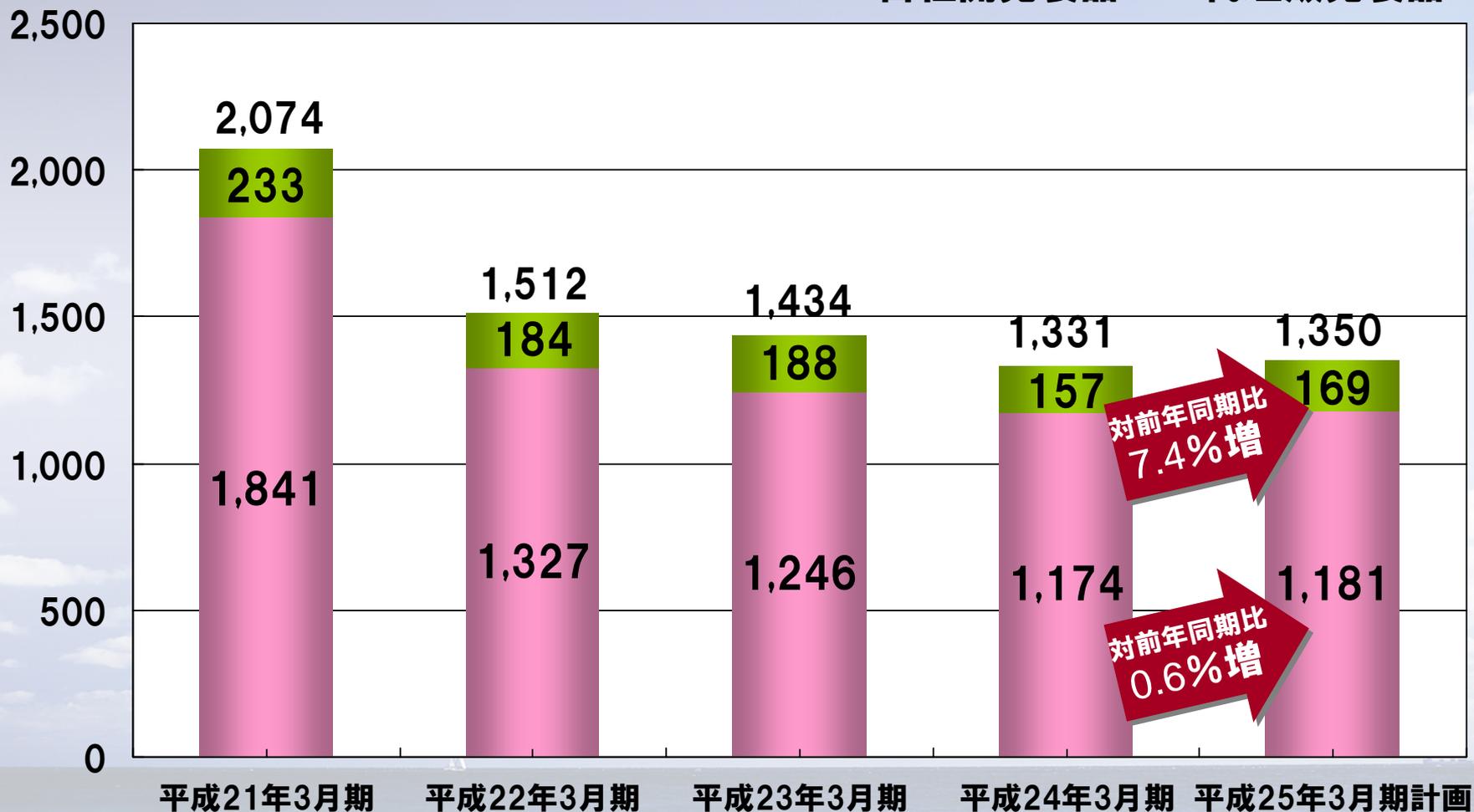


# 製品区分別売上高の推移

【自社開発製品／代理販売製品】

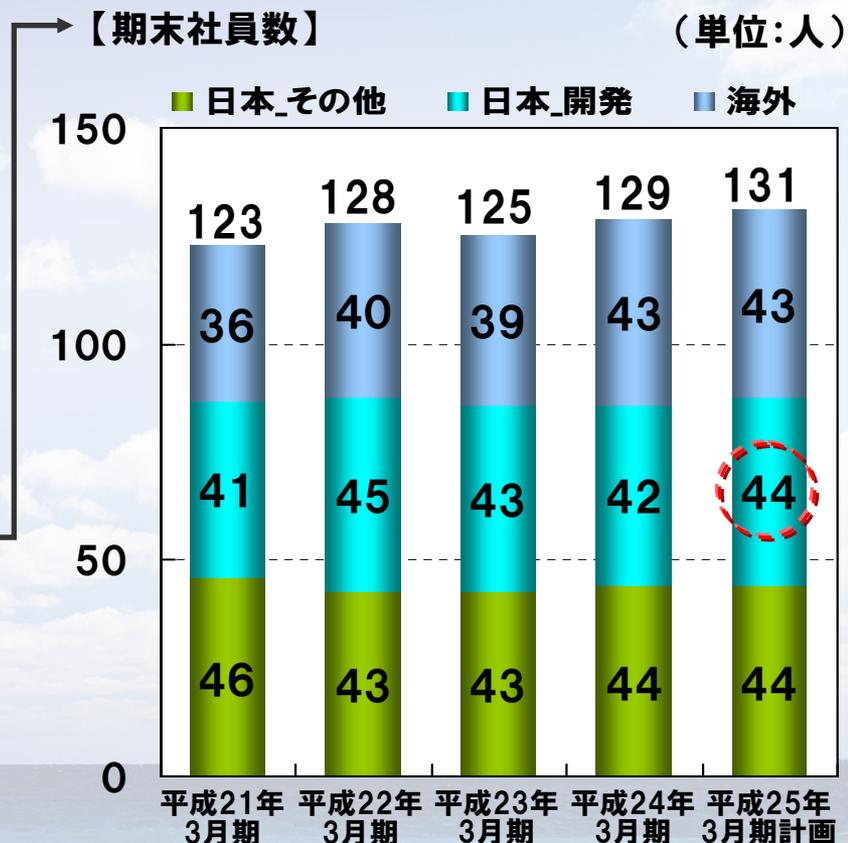
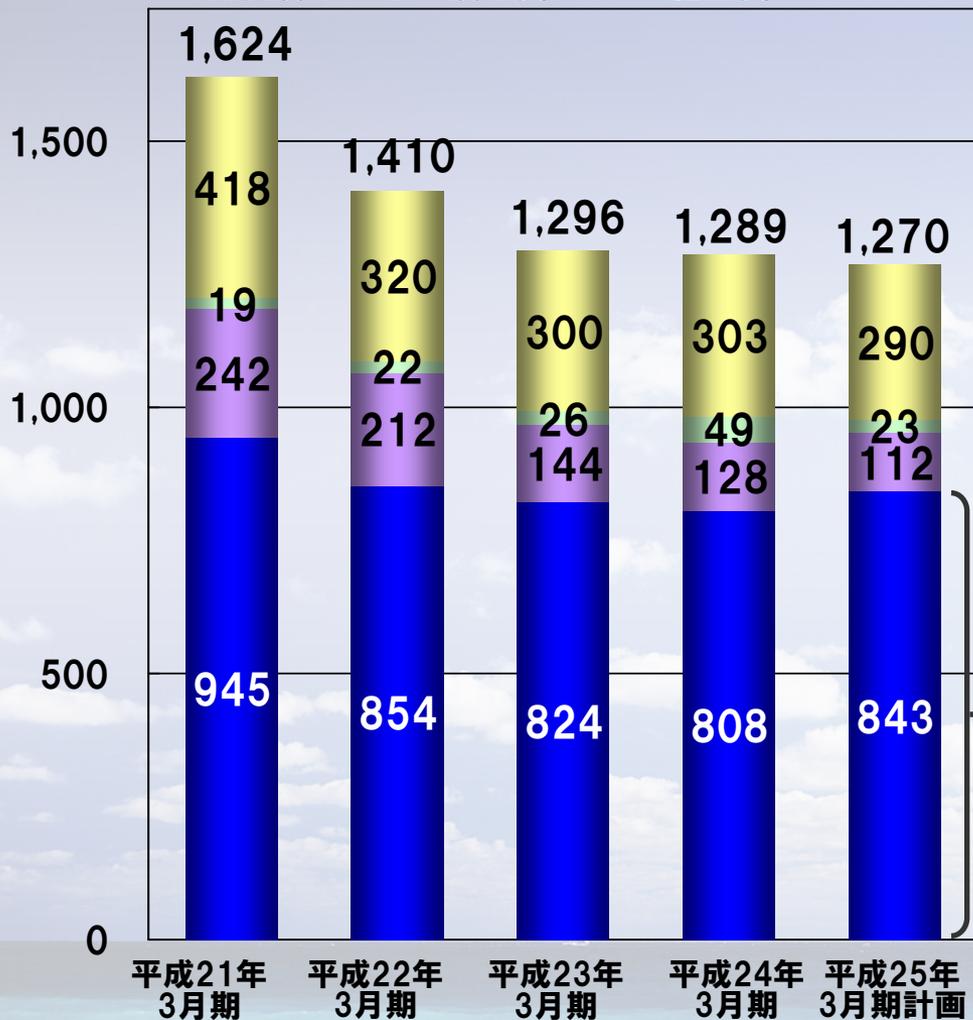
(単位：百万円)

■ 自社開発製品 ■ 代理販売製品



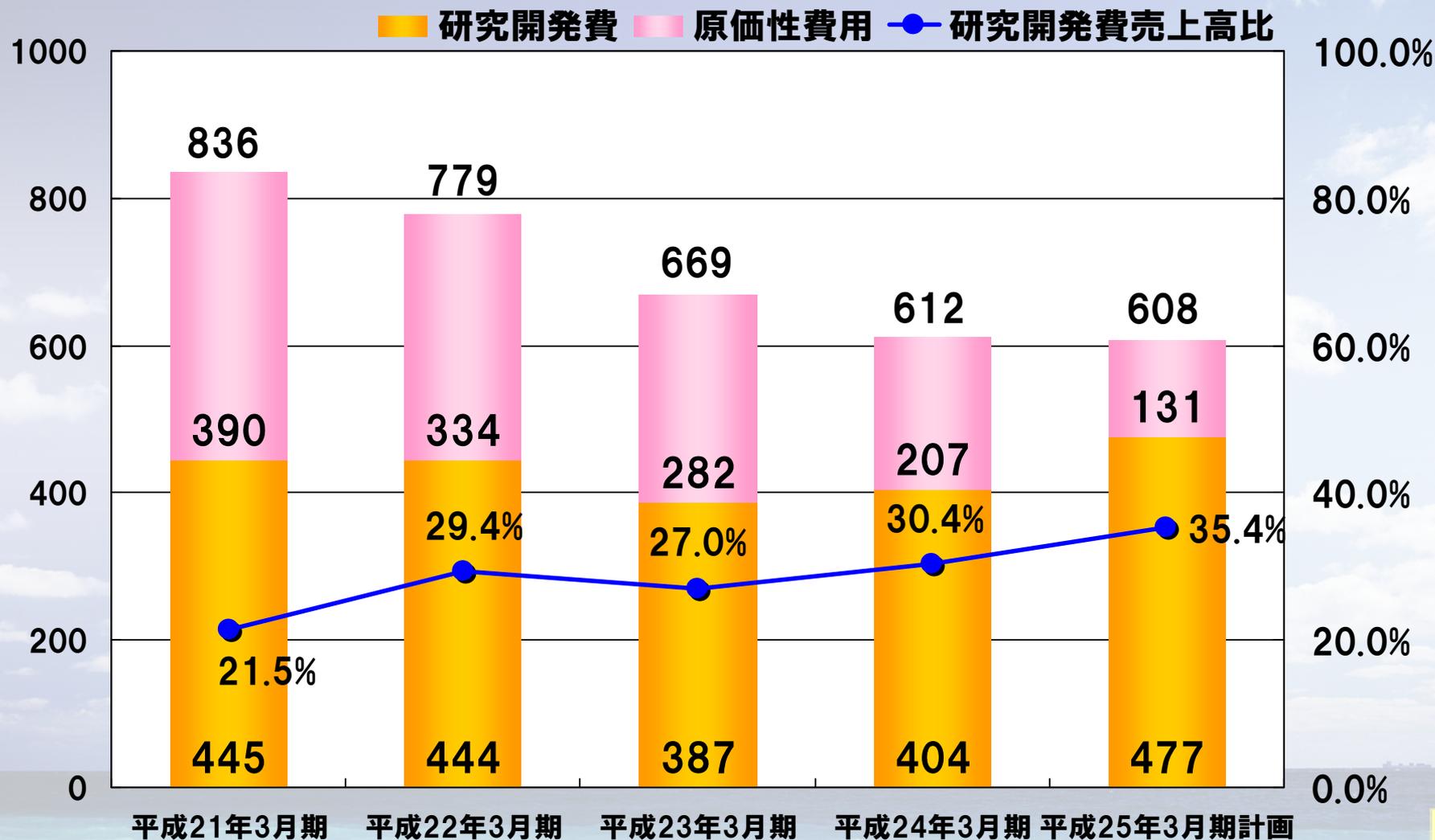
# 固定費内訳

■ 人件費                      ■ 外注費  
■ 減価償却・のれん償却費    ■ その他経費 (単位:百万円)



# 開発部門費・研究開発費

(単位：百万円)



**ご清聴ありがとうございました**